1965年の分離と独立

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

分離への道

人種を問わず市民権に平等な権利が伴うべきだとする「マレーシア人のマレーシア（Malaysian Malaysia）」を掲げたPAPの運動は、連盟党（Alliance）政府の基盤である民族間の合意と真っ向から対立するものでした。1965年5月27日に連邦議会で行われたリー・クアンユー（Lee Kuan Yew）の演説は、後にトゥンクが語ったところによれば「ラクダの背骨を折った最後の藁」となりました。より緩やかな連合をめぐる協議は、すでに1965年2月に決裂していました。[1]

決定的な措置は秘密裏に講じられました。1965年7月15日、ゴー・ケンスイ（Goh Keng Swee）はクアラルンプールでマレーシアのトゥン・アブドゥル・ラザク（Tun Abdul Razak）副首相と会談し、分離を提案しました。7月26日、リーはゴーに協議の再開を認めました。これらの協議に関するゴーの文書は「アルバトロス・ファイル（Albatross File）」として知られ、2023年2月の発表を経て全面的に機密解除されました。その証拠によれば、分離は今や、必要性と戦略的計算によって形づくられた、意図的か

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

つ交渉による決定であったと見られています。GICの設立史も、1965年にマレーシアからの政治的分離が避けられないと最初に見抜いたのは同僚の中でゴーであったことを裏付けています。[2]

1965年シンガポール独立協定

分離の法的文書となったのは、1965年8月7日付のシンガポール独立協定（Independence of Singapore Agreement）です。同協定には、マレーシア側からトゥンクと4人の閣僚が、シンガポール側からリーと9人の閣僚が署名しました。[3] その規定からは、双方が何を不可欠とみなしていたかがうかがえます。

第II条は、シンガポールが「シンガポールの日（Singapore Day）」と呼ばれる1965年8月9日をもってマレーシアの州でなくなり、マレーシアが承認する独立の主権国家となることを定めました。第V条は、両当事国に対外防衛および相互援助に関する条約の締結を義務づけ、これに基づきマレーシアはシンガポール内の基地を維持する権利を保持しました。同条はまた、各当事国が、相手国の独立と防衛を害するような条約を外国と締結することを禁じました。[4]

経済に関する規定は簡潔なものでした。第VI条は、両国に相互の利益のための経済協力を義務づけ、合同の委員会または評議会を設置することを認めました。第VII条はマレーシア協定の附属書Jおよび附属書Kを明示的に廃止し、これにより1963年の財政上の取決めと共同市場は本協定の日付をもって効力を失いました。第VIII条は、シンガポールの債務についてマレーシアが与えていた保証からマレーシアを解放するよう、シンガポールが交渉すること、またその結果生じるいかなる責任についてもマレーシアに補償することを求めました。さらにマレーシア政府は、ジョホール州との1961年および1962年の水協定を保証しました。シンガポールは水の大部分をこれらの協定に依存していました。[5]

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

1965年8月9日

1965年8月9日、マレーシア議会は、PAP議員が欠席する中、憲法およびマレーシア（シンガポール改正）法案（Constitution and Malaysia (Singapore Amendment) Bill）を126対0で可決しました。シンガポールでは、リーが、法務大臣E・W・バーカー（E. W. Barker）の起草したシンガポール独立宣言（Proclamation of Singapore）に署名しました。宣言は午前10時にラジオ・シンガポールで読み上げられ、官報（*Government Gazette*）に掲載されました。[6]

正午、リーは放送会館（Broadcasting House）で記者会見を開きました。経済の将来について問われると、リーは用意した声明を読み上げました。両政府は「防衛と安全保障だけでなく、商工業においても、最も緊密な協力のもとに」取り組まなければならない、というものです。会見の後半、リーは署名の瞬間を「苦悩の瞬間」と表現しました。成人してからの生涯を通じて合併を信じてきたからです。リーが平静を取り戻せるよう、録音は中断されました。[7]

国際的な承認は速やかに続きました。安全保障理事会が前日に加盟申請を審議したのを受けて、シンガポールは1965年9月21日に117番目の加盟国として国際連合に加盟しました。また1965年10月15日には、22番目の加盟国として英連邦に加わりました。同協定は第I-8206号として国際連合に登録されました。[8]

新共和国の法的枠組み

1965年シンガポール共和国独立法（Republic of Singapore Independence Act 1965、1965年法律第9号）は、分離に国内法上の形式を与えました。第1条は、同法が1965年8月9日に施行されたものとみなすと定めました。これにより、同法は分離から制定までの数か月間をカバーすることになりました。[9]

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

同法は、わずか数文で主権を移転しました。第3条により、国王（Yang di-Pertuan Agong）はシンガポールの最高元首でなくなり、その主権と管轄権は国家元首に帰属しました。第5条は、マレーシア議会の立法権をシンガポールの立法府に移転しました。第6条は、シンガポールで効力を有していたマレーシア憲法の規定を必要な修正を加えて存続させるとともに、適用されなくなる規定を列挙しました。[10]

商取引にとって最も重要だったのは、三つの規定です。第9条は、1963年9月16日にマレーシアに移転していたすべての財産、権利および債務をシンガポール政府に戻しました。第11条は、裁判所の管轄と手続を変更せず、別段の定めがなされるまでマレーシア連邦裁判所および枢密院への上訴を維持しました。第13条は、既存のすべての法律が引き続き効力を有し、シンガポールの独立した地位に適合させるために必要な修正を加えて解釈されると定めました。[11]

その結果、法律を変えることなく主権者が交代しました。契約は有効なまま残り、会社は登記されたままで、銀行はライセンスを維持し、裁判所も引き続き開廷しました。貿易港にとって、これは1965年における最も重要な経済上の決定でした。商人や銀行家は、実際には一度も享受したことのない共同市場を失いましたが、慣れ親しんだ法秩序は保たれたのです。

よくある誤解

シンガポールのマレーシアからの分離は、単純な追放として語られることがよくあります。しかし、シンガポール独立協定には両政府が署名しています。アルバトロス・ファイルの文書は、1965年7月15日のゴー・ケンスイとトゥン・ラザクの会談を皮切りに、シンガポールの指導者たちが、合併はうまくいかないとの結論に達した時点で分離を交渉したことを示しています。決定を下したのはクアラルンプールのトゥンクでしたが、防衛上の取決め、水協定の保証、連邦の保証に対する補償など、その条件を形づくったのはシンガポールでした。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

注

1. Wikipedia, “Singapore in Malaysia”（2026年11月最終閲覧）：1965年5月9日に発表されたマレーシア連帯会議（Malaysian Solidarity Convention）。1965年5月27日の議会におけるリーの演説を、トゥンクは“straw that broke the camel’s back”と評した。Wikipedia, “Singapore in Malaysia”（2026年11月最終閲覧）：連合をめぐる協議は1965年2月に決裂した。 ↩

2. Wikipedia, “Singapore in Malaysia”（2026年11月最終閲覧）：ゴーは1965年7月15日にクアラルンプールでトゥン・ラザクと会談し、リーは1965年7月26日にゴーに協議の再開を認めた。Wikipedia, “Singapore in Malaysia”（2026年11月最終閲覧）：アルバトロス・ファイルの全面的な機密解除は2023年2月28日に発表された。分離は“a deliberate and negotiated decision shaped by necessity and strategic calculation”と説明されている。参考文献として、Edmund Lim, “Commentary: What the Release of Goh Keng Swee’s Albatross File Means for Singaporeans”, CNA, 2023年3月27日、およびSusan Sim (ed.), *The Albatross File: Inside Separation* (Straits Times Press, 2025) を含む。GIC, *Bold Vision*, 第2章“Second Separation”（2026年11月最終閲覧）：ゴーは“the first among his colleagues to see in 1965 that Singapore’s political separation from Malaysia was inevitable”であった。 ↩

3. Independence of Singapore Agreement 1965、Wikisource掲載の本文「Agreement relating to the separation of Singapore from Malaysia as an independent and sovereign state」（2026年11月最終閲覧）：1965年8月7日付。マレーシア側の署名者（Tunku Abdul Rahman Putra、Tun Abdul Razak、Dato’ Dr. Ismail、Tan Siew Sin、Dato’ V. T. Sambanthan）およびシンガポール側の署名者（Lee Kuan Yewと、Goh Keng Swee、E. W. Barker、S. Rajaratnamを含む9人の閣僚）。 ↩

4. Independence of Singapore Agreement 1965、第II条および第V条（Wikisource、2026年11月最終閲覧）：シンガポールは1965年8月9日

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

（「Singapore Day」）にマレーシアの州でなくなる。合同防衛評議会。マレーシアは「the right to continue to maintain the bases and other facilities used by its military forces within Singapore」を保持する。「detrimental to the independence and defence of the territory of the other party」となる条約は締結しない。 ↩

5. Independence of Singapore Agreement 1965、第VI条および第VII条（Wikisource、2026年11月最終閲覧）：“for their mutual benefit”の経済協力と合同の委員会または評議会。1963年7月9日のマレーシア協定の附属書Jおよび附属書Kは“expressly rescinded as from the date of this Agreement”。Independence of Singapore Agreement 1965、第VIII条（Wikisource、2026年11月最終閲覧）：シンガポールは、マレーシアを保証から解放するよう債権者と交渉し、マレーシアに全額を補償する。Ministry of Foreign Affairs Singapore, “Water Agreements”（mfa.gov.sg、2026年11月最終閲覧）：“The Water Agreements were guaranteed by the Government of Malaysia in the Separation Agreement signed in 1965”。1961年協定は2011年8月31日に失効し、1962年協定は“will expire in 2061”。 ↩

6. Wikipedia, “Singapore in Malaysia”（2026年11月最終閲覧）：1965年8月9日、議会はシンガポール改正法案を“unanimously by a vote of 126–0 without PAP representatives present”で可決し、その後上院（Dewan Negara）も全会一致で承認した。Wikipedia, “Proclamation of Singapore”（2026年11月最終閲覧）：1965年8月9日にリー・クアンユーが署名。E・W・バーカーが起草。午前10時にラジオ・シンガポールで読み上げられ、官報に掲載された。 ↩

7. Lee Kuan Yew、1965年8月9日の記者会見記録、1頁および12頁：放送会館における記者会見「at 1200 hours on Monday 9th August, 1965」。「work in the closest co-operation, not just in the defence and security, but also in commerce and industry」。Lee Kuan Yew、1965年8月9日の記者会見記録、21〜22頁：「it will be a moment of anguish. For me, it is a moment of anguish because all my life … I have believed in Merger and the

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

unity of these two territories」、「(RECORDING WAS STOPPED FOR THE PRIME MINISTER TO REGAIN HIS COMPOSURE)」。 ↩

8. Wikipedia, “Singapore in Malaysia”（2026年11月最終閲覧）：国連加盟は1965年9月20日に安全保障理事会に提出された。シンガポールは1965年9月21日に国連の117番目の加盟国となり、1965年10月15日に22番目の加盟国として英連邦に加盟した。Wikipedia, “Independence of Singapore Agreement 1965”（2026年11月最終閲覧）：第I-8206号として国連に登録。 ↩

9. Republic of Singapore Independence Act 1965 (Act 9 of 1965)、1985年改訂版（Chapter RSI）、s. 1：「shall be deemed to have come into operation on the 9th day of August 1965 (hereinafter in this Act referred to as ‘Singapore Day’)」。 ↩

10. Republic of Singapore Independence Act 1965、ss. 3および5（1985 Rev. Ed.）：国王（Yang di-Pertuan Agong）の主権および管轄権は「relinquished and shall vest in the Head of State」。マレーシア議会の立法権は「shall on Singapore Day cease to extend to Singapore and shall be transferred」。Republic of Singapore Independence Act 1965、s. 6(1)および(3)（1985 Rev. Ed.）：マレーシア憲法の規定は、第(3)項に列挙された規定を除き、「subject to such modifications, adaptations and qualifications and exceptions as may be necessary」シンガポールにおいて引き続き効力を有する。 ↩

11. Republic of Singapore Independence Act 1965、ss. 9および11（1985 Rev. Ed.）：1963年9月16日以降にマレーシアのものとなった財産、権利および債務は「revert to … the Government of Singapore」。高等法院からの上訴は、別段の定めがなされるまで「shall continue to lie to the Federal Court of Malaysia and to the Privy Council」。Republic of Singapore Independence Act 1965、s. 13(1)（1985 Rev. Ed.）：「all existing laws shall continue in force on and after Singapore Day」。これらは「such modifications, adaptations, qualifications and exceptions as may be necessary

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

to bring them into conformity with this Act and with the independent status of Singapore」を加えて解釈される。 ↩

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.